日本らしい目利きで世界に提示する



2050年までに世界の人口の約70％が都市に集中するといわれています。人々が集中する都市から、持続可能な世界を実現するための「社会課題の解決」や「真の豊かさの実現」が求められます。

江戸時代、 YNKエリアには全国から職人や商人が集い、100万人都市でありながらも、「三方良し」として、人にも環境にも社会にも優しい、清潔で文化的な豊かな暮らしを人々は営んでいたと言われています。こうした系譜を持つYNKエリアだからこそ、日本の文化・精神性を手掛かりに、社会課題を解決し、真の豊かさを体感できるこれからの都市のロールモデルを提示できると考えます。

1 日本の精神性を活かしまちづくりのモデルを提示する

日本の文化・精神性を手掛かりに、社会課題を解決し、真の豊かさを体感できるこれからの都市のロールモデルを提示する。

- YNKエリアでのRegenerative City Tokyo構想の推進

Regenerative City Tokyo構想
・地球・社会・人々のウェルビーイングを向上させるプロジェクトをYNKエリアを中心に創出する。
・①教育・②共創・③実装・④情報発信・⑤場所の提供という5つの取組みを実施。

三方よし	ESG経営・リジェネレーション
道徳経済合一	社会価値と経済価値の両立
もったいない	サーキュラーエコノミー
お互いさま	共助・ケア

江戸から続く土壌を、世界に届くまちづくりのロールモデルに。

2 まちの文化資本力を高める

文化起業家や有識者の実験・挑戦をサポートするほか、YNKエリアから海外への展開や市場拡大も支援し、「日本の文化資本力を高める玄関口」としての立ち位置を確立・発信する。

- 日本文化のアップデートを担うプレイヤーを誘致・発信



B-OWND Gallery
写真：木村雄司



IMADEYA KAKU-UCHI TOKYO



MATCHAMON TOFROM YAESU店

3 このまちの系譜を踏まえて新たな価値を創出する

YNKエリアは、江戸時代から、食、アートが根付くエリアであり、近代においては、安田善次郎や渋沢栄一の活躍に代表されるように社会課題を解決する起業のまちでもあった。近年では金融機関・大企業が集積する一大ビジネス街となっている。こうした系譜を踏まえた拠点整備等を通じ、新たな価値を創出する。

- GIC・8go等食のイノベーション拠点の整備と共創プロジェクトの創出



美食科学の国際拠点「Gastronomy Innovation Campus Tokyo (GIC Tokyo)」と「8go Innovative Kitchen（エゴイノベーティブ キッチン）」から構成される「Tokyo Living Lab」

- オープンイノベーションによる大企業の課題解決の支援とイノベーションエコシステムの形成



日本初のCVCコミュニティ特化型イノベーション拠点「JAPAN CVC BASECAMP」

その他取り組み

- 「国際金融都市・東京」構想の実現に向けた高度金融人材サポート施設の整備
- 持続可能な都市・社会づくりを行うためのオープンイノベーションプラットフォームの推進
- アート・ものづくり文化に関する発信・育成・交流機能を有する（仮称）アートハウスの整備